



卓 話



「社訓を経営に生かす」

週刊ダイヤモンド 編集部

千野 信浩氏

☆この社訓、どこの会社のもの
でしょうか

「できる会社の社是・社訓」
(千野信浩 2007年 新潮新
書) より社訓には創業者や中興



の祖の強烈なまでの思いが現れているものです。それを見ていこうと思うのですが、まず、1の社訓を見てください。そして、これが良い社訓なのか、悪い社訓なのかを自分なりに考えてください。

1. 世界と未来をみつめ新しい価値の創造を通じて
人々の幸福に貢献する

2. かくせば御客の気に入るか、かくせば店の為になるか、かくせば吾務に過失なきか、かくせば大商店の小僧として恥ずかしからぬか、かくせば良けん、かくせば悪しけん、と自ら責め、自ら省る等、かくありたきものの随一なるべし。

さて、1の結果は最後に触れるにして、2番目です。これは三越です。明治時代に三井呉服店から三越百貨店に衣替えして、いきなり経営危機を迎えます。その時の社員教育、特に現場の“小僧さん”向けに作られてものですが、分かりやすく現場の心得を述べているのが分かりますね。

3. 自分に対しては損と得とあらば損の道をゆくこと

これはダスキンです。創業者は関西を地盤とする修養団体、一燈園に入り、そこで幾つかの事業を興します。結局、一燈園を離れてダスキンを立ち上げるのですが、祈りの心は捨てていません。それが良く現れているのがこの言葉ですが、もう一つ重要な事は、損と得など、一時的な判断が正しいかどうか分からないという事ではないでしょうか。例えば3年前の世の中はライブドアに喝采を上げていました。

4. すぐやる、必ずやる、出来るまでやる

いかにもモーレツ企業の4は、やはりモーレツ企業です。日本電産です。社長自身が元旦の午前中しか働観を述べています。下は大変ですね。

5. 決断無き上司は無能と思え。社長へ直訴せよ

日清食品です。ロッテと共に外国人が創業（日清は台湾出身、ロッテは韓国出身）でして、言葉には出さないけれども国籍を理由にした苦労も多かったはずで、そこから生まれた現実主義がこの言葉に含まれているようです。

6. スピード！！ スピード！！ スピード！！

ITの世界は、一般よりも7倍のスピードで動いていると言われていています。どんなにスピードを上げても、まだまだ足りない。とにかくスピードが重要だと、常に戒めているのが楽天です。

7. Celebrate your success and find humour in your failures. (成功を祝い、失敗の中にユーモアを見つけなさい)

世界最大の企業、ウォルマートの創業者が残した言葉です。100万人の従業員を束ねて行くには、いかに社員を乗せていくのかがポイントになるのかも知れませんが、他人の失敗を受け入れるのは、笑って忘れようということでしょうか。とにかく大学のサークルのような雰囲気現場に満ちていることがウォルマートの特徴だと言われます。

8. しけのあるうちにイカリを巻け

ビジネスで成功するにはリスクを取る必要がある。それを漁業会社らしい言葉で表現された、味のある言葉です。マルハが大洋漁業と名乗っていた頃に、創業者の精神として伝えられてきました。

9. その言動は、家族に知られても構いませんか？

こう言われてハッとしなない人はいないでしょう。会社の品格が品質の証明にもなる化粧品会社、資生堂がコンプライアンスを徹底させるために社員に配布している「エシックス（倫理）カード」の一節です。

10. 徒ラニ規模ノ大ヲ追ハズ

世界的企業、ソニーは設立当初、技術者の楽園を夢見ていました。技術者にとって、企業の規模は大きければいいという訳ではない。それが最初から分かっていたので、設立趣意書にこう書かれています。案の定、巨大企業になってしまったソニーの創業者は「会社は官僚が動かす会社になってしまった」と残念がっていたといわれます。

さあ、どうでしょうか。2から10までの企業、それぞれの企業の特色となっている社風が言葉に現れているということがよく分かるのではないかと思います。そ

の会社にしか言えない言葉で語られている、これが「できる会社」の社訓なのです。それでは1に戻ってみましょう。ある有名企業の社訓なのですが、当たり前前を当たり前前に言っているに過ぎませんね。社訓が本来果たすべき役割、法律でも常識でもない会社の姿勢を示すということにはなりません。実は、この会社のように、多くの企業で当たり前前の内容の社訓にどんどん置き換えられています。私は社訓が危機に瀕していると、著書の中で訴えたのですが、こんなことを指摘してる人間には出会ったことがありません。私の考えは杞憂なのでしょう。